

安吾賞とは生きざり賞である。

安吾賞
第十回

Ingo
AWARDS 10TH

新潟市

日本文化私観

安吾の覚悟

どうしても書かねばならぬこと、書く必要のあること、ただ、そのやむべからざる必要にのみ応じて、書きつくされなければならぬ。

いのちの神髄に触れる

加藤登紀子（歌手）

優さん、このたびは安吾賞の受賞本当におめでとうございます。

優さんは、どこからあれだけのバイタイリーがでてくるのか、そしてこれまでいくつの人生を生きてきたのかと思うほど、多くの経歴を膨大な書物の中に書き続けていらっしゃいます。

そのたくましいエネルギーと熱い心で、これからもたくさん作品を残してくださいと、心から楽しみをしています。

今まで読ませていただいた文章の中で心に残っているものは、やはりお母様の戦争体験について書かれていた時の表現です。命の原点というものに触れあえた時の、佐藤さんの表現は本当に素晴らしいものでした。

安吾賞を受賞された優さんが、これからも、たとえ世の中の規範からはずれたとしても、もっと本質的な意味で、人の命の神髄に触れるような真実を求め、突き進んでいかれることを心から願っています。



桜の森の満開の下

安吾の純情

彼の手の下には降りつもった花びらばかりで、女の姿は掻き消えてただ幾つかの花びらになっていました。そして、その花びらを掻き分けようとした彼の手の身も延した時にはもはや消えていました。あとに花びらと、冷めたい虚空がはりつめていたばかりでした。

墮落論

安吾の喝

墮ちる道を墮ちざることによって、自分自身を発見し、救わなければならない。政治による救いなどは上皮だけの愚にもつかない物である。



新潟市長 篠田 昭

第10回安吾賞は、作家・元外務省主任分析官の佐藤優さんに決定しました。

佐藤さんは、1985年に外務省に入省、在ロシア連邦日本大使館などを経て、日本帰任後は国際情報局分析第一課主任分析官を務められました。2002年、鈴木宗男事件に絡む背任容疑で逮捕されましたが、2003年保釈。2005年に『国家の罫』を刊行、作家としてデビューされました。独自の獄中体験、官僚人生、

学術研究、膨大な読書などの蓄積をフル活用して、混迷する社会時事問題の本質と方策を果敢に論ずる唯一無二の立場を築いています。

貴重な情報や教養を惜しみなく開陳し、精緻な分析とわかりやすい比喩を用いて展開する論法は、保守革新を問わず厚い読者層に支持される稀有な存在で、まさに「現代の安吾」そのものです。

また、新潟市にゆかりのある方にお贈りする新潟市特別賞は、新潟県女子体育連盟会長の外山陽子さんを選ばせていただきました。

外山さんは、新潟大学卒業後、県立新発田商工高校教諭を経て、新潟中央高校へ赴任され、ダンス部の顧問として指導にあたりられました。在職中の11年間、熱心な指導

により、中央高校ダンス部は名門ダンス部に成長し、数多くの賞を受賞されました。教職を離れてからも講師としてダンス部の指導を続けられ、今では、かつての教え子たちが市内各地で指導者として活躍するなど、長きにわたり新潟のダンス界の発展に寄与されました。

このような活動を通して新潟市民をはじめ多くの人に勇氣と感動を与えた外山さんに敬意を表し、新潟市特別賞を差し上げたいと思います。

新潟市は、これからも反骨と飽くなき挑戦者魂の安吾精神を発揮する「現代の安吾」に光を当ててまいります。



選考委員長 三枝成彰

このたび、第10回安吾賞の選考が終わりました。今回も県の内外より、ほんとうに多数のご応募をいただきました。

選考の結果、今回の受賞者は作家・元外務省主任分析官の佐藤優さんに決定いたしました。

佐藤さんは同志社大学で神学を学ばれたのち外務省に入省、ロシア大使館や国際情報局に勤務され、分析官としてロシア外交の現場で長年活躍されました。その後、文字通り命をかけた。

て職務につとめられたのち、2005年からは文筆業に転じられました。古今東西の文物に通じるとともに、国益をめぐって異文化がぶつかりあう外交の最前線におられた経歴をもって佐藤さんが発するメッセージはつねに刺激に満ち、21世紀の日本を代表する知性のひとりとして、多くの読者の支持を集めておられます。

今回、定見や常識にとらわれず、政治・経済・社会・文化の裏面に隠されたものを独自の視点から読み解き、幅広い層に提示しておられる佐藤さんのご活動が坂口安吾の精神に通じるものと考え、第10回安吾賞をさしあげることとさせていただきます。

ご応募いただきました皆さんに、心より感謝申し上げます。

第十回

安吾賞



2015

新潟市ゆかりの作家である坂口安吾は、文学をはじめ多くの分野において何事にも一生懸命に挑み続ける人であった。安吾の精神を具現し、さまざまな分野で挑戦し続けることにより、わたしたち日本人に喝を与えた個人または団体を表彰する「安吾賞」。挑戦者を応援する新潟市は、第10回の安吾賞受賞者として、作家・元外務省主任分析官「佐藤優」氏を選出した。

◎安吾賞◎

佐藤優

さとう・まさる
作家・元外務省主任分析官

坂口安吾賞受賞の話を知ったとき、私は、驚くとともにとても嬉しく思いました。今まであまり話したことがない

「けれども怖いばかりです」という言葉が、人生の節目節目で、私の頭の中によみがえってきます。

1991年12月にソ連が崩壊して、自由、民主主義、市場経済が普遍的な価値として定着することになると、ロシア人が未来を夢見ていたときも、私は、この一見自由な社会も、そう遠くない将来に怖ろしい景色になると思っていました。ある時期、私は北方領土問題の解決に文字通り命を賭けて取り組んでました。ただし、このときにもいわずれ怖ろしいことが起きると予感していました。安吾の文章には、人間の深層心理を揺さぶる独自の力があります。それは、安吾のリアリズムに起因

するのだと思います。ここで言うリアリズムとは、近代よりも前の人々をとらえていた目には見えないが確実に存在する事柄をとらえる力です。この力を備えた安吾は、自らが考えている事柄を、できるだけ正確に文章にするという「不可能の可能性」に取り組んでいました。特捜事件に巻き込まれたことをきっかけに私は職業作家になりました。この世界に10年足をかけていますが、まだまだ自分で考えている事柄を正確に表現する力が足りません。安吾に学び、私も真のリアリズムを体得したいと思っています。

(2015年12月8日記)

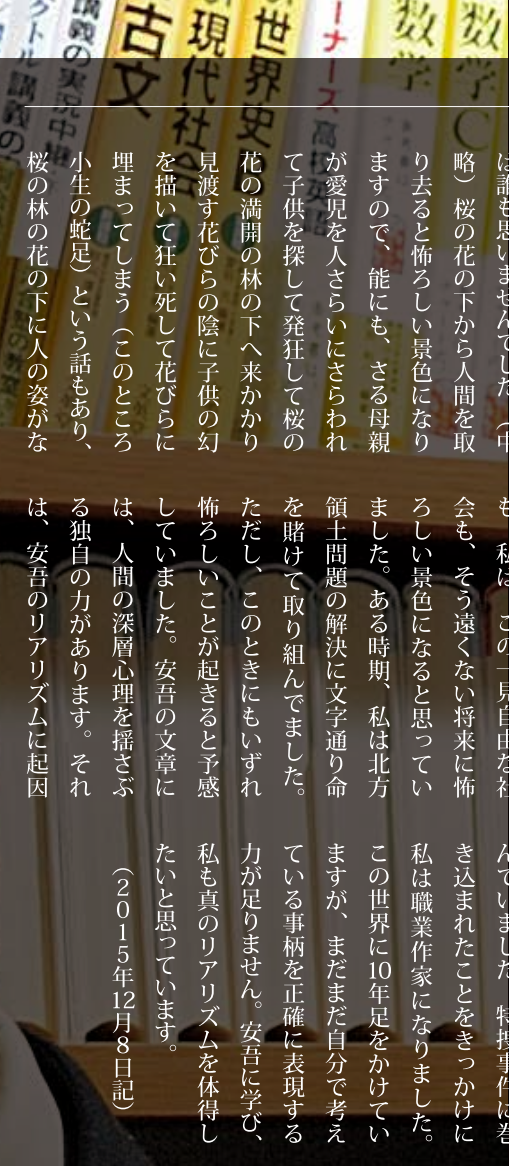


不可視の中の真実

神学・哲学・歴史の研究から外務官俵、逮捕、獄中体験、そして著作家へと激しい人生の変転は、氏の叡智を深めることになった。月に300冊とも言ふ膨大な読書量がさらに知見を高め、不測の情報収集を可能にし、混迷を極める内外の社会問題に烈しく切り込んでいく。

目に見えにくい、あるいは巧妙に隠された真実を読み解く力こそが本当の知性、教養に違いない。その成果を惜しげもなく表明し世に問い続ける姿は、本物のインテリジェンスの稀有な体現者と言える。

その姿と生きざまに賛辞と、さらなる闘いを期待し、第10回安吾賞を贈ります。



写真：永井浩

【佐藤優プロフィール】

作家・元外務省主任分析官。
1960年、東京都生まれ。埼玉県大宮市(当時)で高校卒業まで育つ。県立浦和高校卒業後、同志社大学神学部に進学。同大学院神学研究科修了。在学中は組織神学、無神論について学ぶ。85年外務省入省。在ロシア連邦日本国大使館勤務等を経て、本省国際情報局分析第一課主任分析官として、対ロシア外交の最前線で活躍。また、外交官としての勤務のかたわら、モ

スクワ国立大学哲学部の宗教史宗教学科の講師(弁証法神学)や東京大学教養学部非常勤講師(ユーラシア地域変動論)も務めた。
2002年、背任と偽計業務妨害罪容疑で東京地検特捜部に逮捕、起訴され、以後東京拘置所に512日間勾留される。05年に執行猶予付き有罪判決。09年6月に最高裁で上告棄却、執行猶予付き有罪確定で外務省を失職。13年6月に執行猶予期間を満了し、刑の言い渡しが無効を失っ

た。
05年に発表した『国家の罟』(新潮文庫)で第59回毎日出版文化賞特別賞を受賞。翌06年には『自壊する帝国』(新潮文庫)で第5回新潮ドキュメント賞、第38回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。『獄中記』(岩波現代文庫)、『宗教改革の物語』『危機を克服する教養』(角川書店)など著書多数。

◆新潟市特別賞◆

外山陽子

とやま・ようこ
新潟県女子体育連盟会長



心からの感謝を

教育畑一筋に地味な活動を続けて来た私がこの度、安吾賞の「新潟市特別賞」という大変名誉ある賞をいただき驚きとともに心から感謝しています。

新潟市はダンスのまち

現在、ダンスの盛んなまちといえは新潟市が最初に名前があがる程、全国的に有名になっ

ルギーをみるにつけ、なかなか評価されないことに歯がゆさを感したものである。

継承されるダンス魂

やがて少しずつ認知されるようになり、新潟中央高校のチャリティ公演では1700席のチケットが半日で売り切れる程になった。その後もビッグスワンや東総合スポーツセンターのこ

た。ノイズムや新潟総踊りの活動によるものが大きい。一方で高校生達の活躍も又、素晴らしいものがある。私が新潟市へ転勤が決まった時代は「何を教えてくださいますか」と質問され「ダンス部です」と答えると「ダンス部というと、ああソーシャルダンスですか?」と言われ、がっかりしたのを覚えている。インターハイや国体にはない種目で一般の方々には、わかりにくいイメージな種目だった。しかし、かつて神戸市長が「男子の甲子園・ダンスの甲子園」と言った通り「全日本高校・大学ダンスフェスティバル」には毎年何千人もの若者が集う。

身体表現の総合芸術

創作ダンスはテーマを決めテーマにあったモチーフを創り、内面的感情を表現をするべくフレーズを創り、構成を考え、そして、衣装・照明を考える。まさに身体を媒介にした総合芸術なのである。無から有を創り、ほとぼしるような生徒達のエネ

から落とし、2回目の新潟国体やFIFAワールドカップ新潟大会や、コンフェレーションズカップの開会式と徐々に活動の場を広げていった。そして今、その頃選手だった若者が指導者として地元へ帰り、全国の大会に果敢に挑戦して素晴らしい結果を残している。2015年は参加校95チーム中1位(新潟明訓)、2位(新潟中央)、さらに東京大会では準入賞2位(新潟中央)・準入賞3位(新潟清心)と続々入賞して全国のダンス界の人達を驚かせている。この若者達の活躍のおかげで名誉あるこの賞をいただけたと思っている。

根気よく見守り、応援しつづけて下さった皆様にご心より感謝。そしてダンスにかかわる全ての人の代表としていただけたと思っ

2015年11月



新発田パフォーミングキッズ「花は咲く」。2015年11月、新発田市民文化会館



新発田パフォーミングキッズ「かぐやひめ」。2015年11月、新発田市民文化会館



新発田パフォーミングキッズ「good time」。2015年10月、テレビ新潟35周年記念イベント。朱鷺メッセ

おどりの系譜

表現ヘタと言われる新潟だが、実はおどりの血脈が流れている。故火坂雅志の『新潟樽きぬた〜明和義人口伝』に描かれているように、町を挙げてのおどりに熱狂していた熱き血潮が、外山さんによって甦った。

教育の現場で50年にもわたる指導の歴史は、高い使命感と夢を信じるぶれない生き方に貫かれ、人を育て、町を育てる好循環を生み出した。新潟の町を歩く少女たちの明るい顔は、きつと外山さんのおかげと思う。

感謝と賛辞を込めて、新潟市特別賞を贈ります。

チーム「しばたパフォーミングキッズ」代表を務めているほか、新潟市と新発田市で幼・小・中のためのダンス啓発事業「劇場で踊ろう、ダンスキッズ大集合!」を展開中。新潟県女子体育連盟の会長としても、幼・小・中高・特別支援・生涯体育の研修会や講演会を開催して、会員の資質向上をめざしている。

平成17年には、アメリカで開催された「ダンスドリルチーム全米・国際ダンス大会」でも総合優勝する実績を残し、新潟市スポーツ大賞を受賞した。個人としても新潟県知事表彰(平成16年)、文部科学省生涯スポーツ功労賞(平成27年)等の表彰を受けている。現在は、新発田市の幼小中高の子供達のダンス

【外山陽子プロフィール】

1943年 柏崎市に生まれる。新潟大学教育学部卒業後、新発田市の高校へ赴任、ダンスを始める。第1回目に出場した大会では最下位であった。その後、新潟中央高校へ転勤。同校のダンス部を率いて神戸市で行われる全日本ダンスフェスティバルにおいて文部科学大臣賞を始めNHK賞、神戸市長賞、等々数多く受賞。

新潟市ゆかりの作家である坂口安吾は、文学をはじめ多くの分野において何事にも一生懸命に挑み続ける人であった。安吾の精神を具現し、さまざまな分野で挑戦し続けることにより、わたしたち日本人に喝を与えた個人または団体を表彰する「安吾賞」。挑戦者を応援する新潟市は、安吾生誕100年を記念して2006年に安吾賞を創設した。



安吾賞とは生きざり賞である。

安吾賞歴代受賞者

安吾賞

新潟市特別賞

<p>野田秀樹 劇作家・演出家・俳優</p>  <p>第1回 2006</p>  <p>横田早紀江 拉致被害者家族連絡会代表(滋さん)</p>	<p>野口健 アルピニスト</p>  <p>第2回 2007</p>  <p>カール・ベックス 建築デザイナー</p>	<p>瀬戸内寂聴 作家・僧侶</p>  <p>第3回 2008</p>  <p>近藤亨 NPOネパール・ムスタン地域開発協力会理事長</p>	<p>渡辺謙 俳優</p>  <p>第4回 2009</p>  <p>野坂昭如 作家</p>	<p>ドナルド・キーン 日本文学文化研究者</p>  <p>第5回 2010</p>  <p>月乃光司 「こわれ者の祭典」代表</p>	<p>荒木経惟 写真家</p>  <p>第6回 2011</p>  <p>能登剛史 「にいがた総おどり」副会長 総合プロデューサー</p>	<p>若松孝二 映画監督</p>  <p>第7回 2012</p>  <p>天野尚 写真家</p>	<p>会田誠 美術家</p>  <p>第8回 2013</p>  <p>大友良英 音楽家</p>	<p>草間彌生 前衛芸術家・小説家</p>  <p>第9回 2014</p>  <p>Cooba アコーディオニスト・作曲家</p>	<p>佐藤優 作家・元外務省主任分析官</p>  <p>第10回 2015</p>  <p>外山陽子 新潟県女子体育連盟会長</p>
--	--	---	---	--	--	--	---	---	---



選考委員会

2015
8/26

全国から推薦があった85件の個人・団体の中から選考が行われた。宣言書にある「権威におもねらず本質を提示するもの」「自らの信念を貫き挑戦し続けるもの」「日本人に勇気と元気を与えるもの」を選考の基本としながら、白熱した議論が交わされ、第10回安吾賞は作家・元外務省主任分析官の佐藤優さんに決まった。

記者会見

2015
12/17

篠田市長と齋藤選考副委員長、安吾のご長男の坂口綱男さんによる記者会見が新潟市で開かれた。選考理由について、齋藤副委員長より「定見や常識にとらわれず、政治・経済・社会・文化の裏面に隠されたものを独自の視点から読み解き、幅広い層に提

【第10回】

安吾賞音信



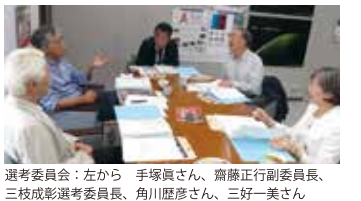
受賞者発表会

2016
1/11

をはじめ多くの人に勇気と感動を与えた外山さんに敬意を表し、新潟市特別賞を差し上げたいと思います」と述べた。



東京都の日比谷図書文化館・大ホールにおいて、関係者、出版・報道各社などを招き、受賞者発表会を開催した。会場には、安吾賞第8回受賞者の会田誠さんをはじめ、多くのお祝いのメッセージが寄せられた。席上、佐藤さんは受賞について聞かれ、「まず、驚きました。いくら無頼がチームでも、これだけ反社会性の強い人間に賞をくださるとは。特に東京地検特捜部に捕まるというのは、悪いのでもレベルが相当違うわけです。なおかつ、独房に512日ほど入っておりますので、まさかと思いました。感謝しています。」と語り、会場の笑いを誘った。また新潟市について、「安吾賞をきっかけに、新潟にもご縁が



選考委員会：左から 手塚眞さん、齋藤正行副委員長、三枝成彰選考委員長、角川歴彦さん、三好一美さん



記者会見：左から 坂口綱男さん、篠田昭新潟市長、齋藤正行副選考委員長

示しておられる佐藤さんのご活動が坂口安吾の精神に通じるものと考え、第10回安吾賞をさしあげることとさせていただきます。」と、選考理由が読み上げられた。また、篠田市長も以前より佐藤さんの著書のファンだと語り、まさに「現代の安吾」という人を選んでいただいたと語った。

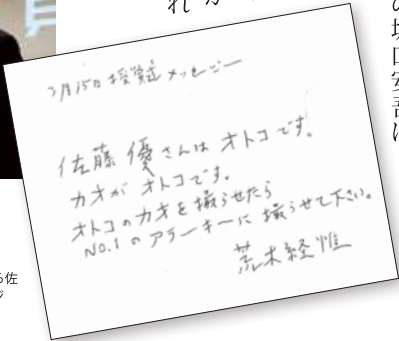
新潟市特別賞について篠田市長は「外山さんは、新潟中央高校在職中の11年間、ダンス部の顧問として熱心に指導にあたられ、中央高校ダンス部を名門ダンス部に成長させ、数多くの賞を受賞されるとともに、教職を離れてからも講師としてダンス部の指導を続けられ、今では、かつての教え子たちが市内各地で指導者として活躍するなど、長きに渡り新潟のダンス界の発展に寄与されました。このような活動を通して新潟市民

きた。私にできることがあれば何でも言つてください」と語った。

また、以前から親交があったという選考委員の角川歴彦氏からも、「佐藤さんは今、お話を聞いていただいたとおりの方です。知の巨人というより知の怪物と言つていい。こういう佐藤さんの生き様こそ本当に昭和の、あるいは平成の坂口安吾にふさわしい。」と、お祝いの言葉が述べられた。



受賞者発表会：左から 篠田昭新潟市長、三枝成彰選考委員長、佐藤優さん、角川歴彦さん



第6回受賞の荒木経惟さんから佐藤さんへのお祝いメッセージ

安吾年譜

明治三十九年（一九〇六）十月二十日、父仁一郎、母アサの五男として新潟市西大畑町に生まれる。（本名・柄五）西堀幼稚園、新潟尋常高等小学校（現新潟小学校）へ進む。大正八年県立新潟中学校（現県立新潟高等学校）入学。この頃から学校にもあまり登校せず、ひとり日本海に面する浜辺に寝こんで空と海と風と波と光とを終日眺め思索した。荒漠たる風と日本海の風景は安吾文学の原風景といえる。

余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであろう。大正十一年、中学三年生の九月、落第が決定的となり東京の豊山中学校三年に編入。この時、新潟中学校の机のふたに「余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであろう」と彫つたという。大正十四年豊山中学校を卒業。世田谷北沢の分教場（現代沢小学校）の代用教員となり自然の中に悪童たちと遊んだ。その体験は『風と光と二十の私』になる。この頃から求道の厳しさに対する憧れが強まる。

求道者 安吾 大正十五年、東洋大学印度哲学倫理学科に入学。悟りを開くため多くの哲学宗教書を読破、睡眠四時間という厳しい修行生活を一年半続け神経衰弱に陥つたが、それを梵語、バリー語、チベット語、フランス語、ラテン語などを猛然と勉強することにより克服した。

文壇デビュー 昭和六年一月、処女作『木枯の酒倉から』を発表。五月『ふるさと』に寄する讃歌、六月『風博士』を発表、牧野伸一が激賞。七月『黒谷村』を発表、島崎藤村などが賞賛し、新進作家として文壇に認められる。昭和七年の夏、新進女流作家の矢田津世子を知り烈しいプラトニック

ク・ラブに陥り、安吾は懊悩し酒場のマダムなどと同棲するデカダンスな生活を重ね、四年後ようやく彼女と訣別を決意。昭和十三年、新たな決意のもと執筆した長編『吹雪物語』は酷評され、安吾は自分に絶望し、転居を繰り返して自らを孤独の淵に置きながら、どん底の淪落の生活を送る。しかし『紫大納言』（昭和十五）、『木々の精、谷の精』（昭和十五）などの新境地をひらく。

小菅刑務所・ドライアイス工場・軍艦に見いだす必然の美 昭和十七年、国粹主義の時代、大胆な『日本文化私観』を発表し、伝統文化を呑み込むことへの欺瞞を指摘した。

落ち切ることにより真実の救いを発見せよ 昭和二十一年、敗戦後の昏迷の中でいち早く戦後の本質を洞察し、四月『墮落論』、六月に『白痴』を発表。この二編は、若者を中心に戦後虚脱していた日本人に強い衝撃を与えた。戦前戦中の倫理観を捨てた新たな生き方を指し示す革命的宣言は希望の書となり、『墮落論』によって戦後の日本が再スタートした。昭和二十二年『風と光と二十の私』、『桜の森の満開の下』、『不連続殺人事件』、『青鬼の禪を洗う女』を発表。

戦う安吾 昭和二十五年、『安吾甚談』を連載し、戦後のタブーに挑戦する。昭和二十六年国税局と税金滞納、差押えをめぐる『負けレマセン勝ツマデハ』を発表。税金闘争をひとり戦い抜き、同年九月には競輪不正事件で自転車振興会を相手どり戦う。『夜長姫と耳男』（昭和二十七）発表。

急逝 昭和三十年（一九五五）二月十七日、古代史の雄大な構想とともに、原風景に由来する創造活動に意欲を燃やしはじめた矢先に、桐生の自宅で脳溢血で急逝した。享年四十八。

安吾賞選考委員



委員長
三枝 成彰
作曲家



副委員長
齋藤 正行
安吾の会世話人代表
新潟・市民映画館シネ・ウインド代表



角川 歴彦
株式会社 KADOKAWA
取締役会長 会長執行役員



手塚 眞
ヴィジュアルリスト



三好 一美
日本MITベンチャーフォーラム理事
パイロ エンタープライズ代表取締役社長

安吾賞推薦人 (敬称略50音順)

青木 邦雄	(公財)東日本鉄道文化財団副理事長
青島 健太	スポーツライター
安斎 隆	(株)セブン銀行代表取締役会長
稲盛 和夫	京セラ(株)名誉会長/稲盛財団理事長
植村 鞆音	著述業
内田 力	(株)コロナ代表取締役社長
梅原 猛	哲学者
岡本 厚	岩波書店代表取締役社長
荻野 アンナ	作家/慶應義塾大学教授(文学部)
鎌田 薫	早稲田大学総長
川淵 三郎	(公財)日本サッカー協会最高顧問
北川 正恭	早稲田大学名誉教授
熊澤 敏之	筑摩書房代表取締役社長
小林 幸子	歌手
佐藤 忠男	映画評論家/日本映画大学学長
佐藤 信秋	参議院議員
関川 夏央	作家
高澤 正樹	新潟放送特別顧問/日本文芸家協会会員
武田 鉄矢	海援隊
田中 里沙	宣伝会議編集長
檀 太郎	CMプロデューサー/エッセイスト
中山 輝也	新潟経済同友会特別幹事
野沢 慎吾	セコム上信越(株)代表取締役会長
服部 幸應	(学)服部学園理事長/服部栄養専門学校校長/ 医学博士/日本食普及親善大使/新潟市食と花の 総合アドバイザー
早野 透	桜美林大学教授
半藤 一利	作家
福田 勝之	新潟商工会議所会頭
福武 總一郎	(株)ベネッセホールディングス最高顧問
藤沢 周	作家/法政大学教授
三田 ジョンストン 智子	アルビレックスチアリーダーズ チーフディレクター
三田村 邦彦	俳優
三瀧 末雄	(株)ミヅマアートギャラリーエグゼクティブディレクター
村松 友視	作家
山本 寛斎	デザイナー/プロデューサー

安吾賞賛同者 (敬称略50音順)

渥美 千尋	在アイルランド特命全権大使
泉田 裕彦	新潟県知事
内海 桂子	(社)漫才協会名誉会長
ジェームス三木	脚本家
篠田 正浩	映画監督
瀬戸内 寂聴	作家/僧侶
檀 ふみ	女優
福原 義春	(株)資生堂名誉会長
宮田 亮平	東京藝術大学 学長
(株)旺文社	

肩書きは2015年4月1日現在のものです。

第10回 安吾賞授賞式 2016年3月16日(水)
新潟市民芸術文化会館 りゅーとびあ・劇場



新潟市

- 安吾賞事務局
〒951-8550 新潟市文化政策課
TEL. 025-226-2563 FAX. 025-230-0450
E-mail bunka@city.niigata.lg.jp
- 安吾賞 URL
<http://www.city.niigata.lg.jp/info/bunka/ango>
- 坂口安吾デジタルミュージアム URL
<http://www.ango-museum.jp>